



在京古高同窓会会報
第74号
http://在京古高同窓会.com
〒273-0117
鎌ヶ谷市西道野辺14-47-105
在京古高同窓会事務局
高橋 克嘉
TEL.090-8172-1938
kktakahashixx0987@gmail.com
編集長：亀井 明
印刷：(株)ケーヨー

影渺茫の大崎に

会長 伊藤 健二



標題の次は「伝統の血受け継ぎし
正気脈打つ健児らの♪」と続きます。
多くの方にとっては、そんな応援歌
は知らない！との反応は当然です。
これは旧中新田町の地区生徒会「成
徳団」の団歌だからです。

応援歌の種が尽きて、今度は個人
的な懐旧の念のものと訝るかとは
思いますが、母校の地区生徒会の現
状には、今を写すものがあります。
私の在校時には、例によって罵声
の飛び交う入団式があり、無理難題
の質問に答え、標記の団歌の練習が
ありました。おかげで今でも団歌は
二番まで暗唱することができました。
年中行事は、強歩会、肝試し、野球
大会、先輩の講話、3年生を送るカ
レーライスの会と続きます。野球大
会は岩出山の地区生徒会「臥牛会」
との対抗戦の時期もありました。
団長は、地域を支えているOBの
方で現役の高校生は副団長になりま
す。まさに地域の方々が高校生を支
え、育てている構図でした。
ずいぶん濃密なもので、それが

今となつては学業優先、部活もある
のに、面倒に感じられるものかもし
れません。個の尊重の中にあつて、
地域のしがらみなんてというものか
もしれません。実際、年中行事は菓
菜山への登山ぐらいいになり、それ
もコロナ禍には開催できず、明けても
なにもできずにいるようです。また、
名簿一つにしても、個人情報保護と
やらで、簡単には作れなくなってい
ます。地域を支えているOBの努力
もむなししく、活動休止に至っていま
す。

イトコ会を知っていますか

イトコ会などと言っても、東京で
は意味は通じず、大崎独特の言い回
しだと思えます。厳密な従兄弟の集
まりではなく、親戚が寄り集まる会
です。

私の父存命の時期にはしていたも
のですが、今は途絶えています。先
日親戚でかつ高校の同級生のK君が
それを4年ぶりに開催したとのこと
でした。当主として立派だなと思
い、当日の係累の名簿を見せていた
だきました。K君の父君はなんと
十二人兄弟姉妹で、もう存命の方は
いないのですが、その子と孫たちが
集まっているのです。家系図のよう
に作つてあるので、大きな山脈のよ
うに見えます。それぞれの生き方、
ご苦労が背後にはあるので一からげ
にはできないのですが、その集合の
血脈の太さに驚かされました。
君に敬意を表しています。

在京同窓会メモ

- ・会計年度は4月-翌3月、年会費は2,000円です。振込用紙が同封された方は会費納入をお願いします。
- ・会の健全運営のため、賛助金のご協力をお願いします。
- ・次回会報第75号は2025年6月1日発行予定、原稿は常時受付。

しがらみ(欄)は不要なものか

世のしがらみと書くとネガティブな印象があり、絆とすると、なんとなく美化されます。前者は既成で外生なものからのつながりであつて、受動的なものです。後者には自分からという能動的な印象があるからかもしれません。

同窓会、地区生徒会、親戚の集まりなどは、一種のしがらみ(まといつくもの)のようなものです。今の時代においては、率直に言つて、しがらみ結構！既成のこのような繋がりを大切にしたいのだからと思つています。独立歩で切り開いていくのも大事ですが、折角の縁に価値を認めていいのだと思えます。一から関係を深めて多様な価値観にふれるのには限界がありますし、しがらみは自分の拠り所になるものがあるからです。

在京同窓会の現状

皆さまのご支援で、会費、賛助金も多くなりました。運営自体は健全にできています。

年明けには「旧古川市内4校合同新年の集い」を開催予定です。昨年は4年ぶりでしたが、百五十人余りの参加を得ることができました。お出でをお待ちしています。

会報の後半には会員通信欄がありますが、最近多くの方が記載していただき、行間にそれぞれの生き方が見え、興味深いものです。同封のハガキをお使いいただき、投稿をお願いします。

第29回 旧古川市内四校関東同窓会「新年の集い」のご案内

1. 開催日時

令和7年1月25日(土曜日) 11時~15時
(受付開始: 10時15分)

- 11時00分~11時30分 4校代表挨拶
- 11時30分~11時40分 来賓挨拶
- 11時40分~12時30分 公演
- 12時45分~15時00分 4校同窓会代表挨拶・懇親会

2. 場所

KKR ホテル東京 10階「瑞宝の間」
東京都千代田区大手町1-4-1 電話 03-3287-2921

公演: 「祥子&平田もも子 新春コンサート」

吉田祥子さん(平成6年黎明高校卒)と
ピアニスト&編曲者 平田もも子さんの
デュオ。

3オクターブ全域でしゃべるように歌い、
音域の広さと感情豊かな表現力、ジャズ
テイストを加えたアレンジが特徴。



vo.祥子 pi.平田もも子

複雑な税務問題の相談に応じます

税理士鈴木博事務所

税理士 鈴木 博 (昭和46年卒)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-5-1 第37森ビル1階
(虎ノ門合同事務所)

TEL 03 (3433) 0481 FAX 03 (3433) 0493
E-mail: hiro0917@toranomom-ssta.com

TECHNOLOGY of MAGNETIC PRODUCTS

EMC対策部品

- ノーマルモードラインフィルター
- コモンモードラインフィルター

チョークコイル

- スイッチング電源用ブーストチョークコイル
- インバータ家電PFC用ブーストチョークコイル



TMP株式会社
代表取締役 佐藤勉(昭和42年卒)

神奈川県大和市大和南2-1-16 大和ホワイトビル7F
TEL 046-260-6788 FAX 046-260-1624

近況のご報告

古川高等学校長 牛来 拓二



在京古高同窓会の皆様には、日頃より母校の教育活動に対して深いご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。今年度も皆さまと楽しくお会いしながら、豊富な人脈にも触れることができました。コロナ禍からの回復に合わせるように参加者の輪も広がり、私自身も活動の魅力に引き込まれているようです。

さて、同窓会総会等では既にお知らせしておりますが、令和6年度の県総体においては男子ソフトボール競技が3年ぶりの優勝を遂げ、陸上競技では男子三段跳1名、女子走高跳2名がそれぞれインターハイ出場を果たしました。インターハイの開催地は九州でしたので、大変急でしたが7月に寄付の願いを各支部で行わせていただきました。多くの同窓生の方々から激励のお気持ちを感じていただきましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。結果は男子ソフトボール競技が滋賀県代表との1回戦を突破し、2回戦へと進出しました。陸上競技はいずれも予選落ちではありましたが、男子三段跳では自己ベストを記録し、今後の競技生活と進路達成に向けた大きな一歩とすることができました。施設面では決して恵まれているとはいえない中で、互いに切磋琢磨しあう部活動は本校に様々な面で元気を与え続けています。

12月に行われる修学旅行は今年度の本校の目玉行事です。今回からは関西方面と台湾方面との2方面です。昨年の会報でもお知らせしましたが、台北市政府教育局の代表団と生徒が今年の7月に本校を訪問し、10月には台北市立大安高級工業職業学校の旅行団が訪問しました。オンライン交流も含めて、事前に3回もの交流が持てたことは今後の交流を深めていく上でも大変意義深いことであると考えております。令和7年度は大崎市に全国で2番目に当たる公立の日本語学校が設立されますので、本校におけるこれらの経験が今後生徒達の国際交流面での貢献に寄与するものと確信しております。関西方面の旅行と合わせることで、本校の新しい文化が創られると期待しております。

話は変わりますが、5年ぶりに関西雪会が開かれるとのこと。この5年間、未知のウイルスへの各学校の対応にも世の注目が寄せられることがありました。令和2年当時、私は仙台二高の教頭だったのですが、2月は高校の卒業式の対応についての取材を受け、他校とも連絡を取りながら座席の間隔を広くして実施することを答えたり、5月には小学校前で入学式が延期になっていた1年生の親として取材を受け、これ以上感染が広がらないように生活面で注意したいと答えたりしました。取材しやすい場所で、テレビ的には男親からのコメントが欲しかったので、少くも少し時間がたち、コロナワクチンの接種券が送られてきた頃、児童館の前で待ち構えている報道陣がありました。3度目の取材となりました。「お子様にワクチンは摂取させますか?」「そのつもりです」「え、そうなんですか?」ワクチンの副反応を危惧している声がある中で取材

でしたが、生物の教員でもあったので、開発されたワクチンの効果に期待している旨の答えをしました。ロカルニュースとはいえ、報道というものはバランスをとって取材されているように思っていました。ネットでも繰り返し映像を見ることができると、同一人の意見ばかりが取り上げられることもあるものだと、変な気持ちになったことを覚えております。その直後には国政選挙の出口調査にも当たってしまいました。そのような私でしたが、古川高校に赴任して思うことは、常に地域から注目される、また将来注目されて欲しい生徒達が集う場がここにあるということです。自らの行動や発言が社会や地域を支えるという自負を持ち、揺るがぬ心で日々を過ごす生徒を育成できるように、古高の魅力を高める努力を続けたいと存じます。今後とも皆様には、多方面からのご助言を賜りますようお願いいたします。

本部同窓会事務局だより

近況報告

事務局長 遠藤 直樹



在京古高同窓会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年は10月末にもかかわらず大崎市でも夏日の日があったりで、地球温暖化を肌で感じられる秋でした。これまでの本校と同窓会が関わった行事等について報告いたしました。4月30日に開校記念行事を実施しました。今回は同窓会が橋渡しをし、記念講演講師に元宝塚歌劇団に在籍していました蓮つかささんをお招きして講演をいただきました。高校時代に宝塚を目指していた当時の話や宝塚に在籍していたときの苦労話や最後の退団公演のエピソードなどを映像や動画を交えてお話いただき、生徒は目を輝かせながら話に聞き入っていました。また蓮さんの兄の南山英亮様にもご出席いただき陸上自衛隊のヘリコプターのパイロットになる夢への実現の過程などを講演いただきました。現状に満足している生徒が多い中で今後の進路達成に向けて大きな夢を持つことの意味やこれからの人生の選択についてとても刺激になったのではないかと思います。講演会の最後は蓮さんと新山さんが全校生徒の中に入り一緒に記念撮影をしましたが最後には生徒も緊張感がほぐれその場で積極的にコミュニケーションを取る場面なども見られました。内容や当日様子の画像に関しては先に発行しております同窓会会報に記載がありますので目を通していただければと思います。

令和6年度の古高同窓会総会は8月10日(土)にグランド平成にて伊藤健二在京古高同窓会会長などの来賓を含め約140名が参加し盛大に実施しました。記念講演は当時の世界最大の望遠鏡「すばる」の開発者である三神泉様をお招きしてすばる望遠鏡の開発プロジェクト、またその望遠鏡の完成までの紆余曲折のあった過程などの内容をNHK「プロ

ジェクトX」の番組で放送された当時の映像を交えて講演いただきました。望遠鏡の要である8mを超える巨大鏡をいかにたわみをなくし誤差がないよう製作するか、また完成した巨大鏡をどのようにしてハワイ島まで運搬したか、遙か彼方の星を観測するロマンなど興味深い講演をいただきました。また最後の懇親会も大盛況で実施し盛会で終了しました。在校生の活躍ですが九州地区北部で開催されたインターハイに男子ソフトボール部と陸上競技部の3名が参加しました。ソフトボール部は2回戦進出、陸上部は男子三段跳、女子走高跳の2名とも予選敗退という結果となりました。物価高騰の現在、遠征に行くにも高額の個人負担がかかるため卒業生の皆様には支援金という形でご協力いただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。来年度の同窓会総会は8月9日(土)にグランド平成で行います。是非お時間に都合がつく方はご出席ください。加えてこれまで永きにわたって使用していただきました職員室のある管理棟を新築することになりました。学校を挙げての大きなイベントが今後控えておりますので在京同窓会の皆さんをはじめとする卒業生の方々にご協力をいただく場面が出てくると思います。その際は是非ご協力をお願いいたします。

総会報告

令和6年度定時総会は6月22日(土)、7名のご来賓をお迎えし総勢59名出席のもと、東京・御徒町のオーラムで開催されました。総会の部では、S51年卒の菅原博之さんの司会進行のもと、議案は原案通り滞りなく議決されました。

公演の部では、H24年卒のソプラノ歌手・青木麻菜美さん(ニューヨーク在住)に、素敵な歌声を披露していただきました。青木さんの歌唱は冒頭の「乾杯の歌」で早々に聴衆の心をつかみ、最後の曲「オーソーレミオ」に至るまで皆、感動しきりの様子でした。「オーソーレミオ」を歌い終えても拍手が鳴り



親懇会の部では、青木さんの今後の活動に役立ててもらおうと、誰からともなく自然発生的に、「カンパ」が始まったのです。その「贈呈式」もまた感動的なものでした。

今回の定時総会は、古高OGである青木麻菜美さんの実演をライブで鑑賞する機会を提供した点、および「古高の絆」を再確認することができたという点で、非常に有意義な総会だったのではないだろうか。



(S59年卒 高橋克嘉記)

〈第1号議案〉令和5年度活動報告 令和5年4月1日～令和6年3月31日

Table with 3 columns: 年月日, 活動内容, 場所. Lists activities from May 7 to March 23, including general meetings, newsletters, and dinners.

〈第3号議案〉令和6年度活動計画案 令和6年4月1日～令和7年3月31日

Table with 3 columns: 年月日, 活動内容, 場所. Lists activities from April 21 to March 22, including general meetings, newsletters, and dinners.

〈第2号議案〉令和5年度 決算報告及び〈第4号議案〉令和6年度 予算案

Table with 5 columns: 科目, 決算額(円), 予算額(円), 増減額(円), 備考. Shows financial results for the 2023 fiscal year.

Table with 6 columns: 科目, 決算額(円), 予算額(円), 増減額(円), 備考, 予算額(円). Shows financial results and budget for the 2024 fiscal year.

在京古高同窓会役員選任の件

在京古高同窓会役員選任の任期が満了しますので、在京古高同窓会会則（以下「会則」という。）第9条第1項の規定に基づき、役員8名の選任をお願いいたします。役員候補者は、次のとおりです。

- 会長 伊藤 健二 S 48年卒(再任)
 - 副会長 山中 政法 S 44年卒(新任)
 - 副会長 加藤 敏朗 S 48年卒(再任)
 - 副会長 亀井 明 S 55年卒(再任)
 - 兼編集長
 - 事務局長 高橋 克嘉 S 59年卒(新任)
 - 会計 貝 修二 S 48年卒(新任)
 - 監事 後藤 雍正 S 39年卒(新任)
 - 監事 鈴木 博 S 46年卒(新任)
- ※任期は、2年とされています(会則第7条第2項)。

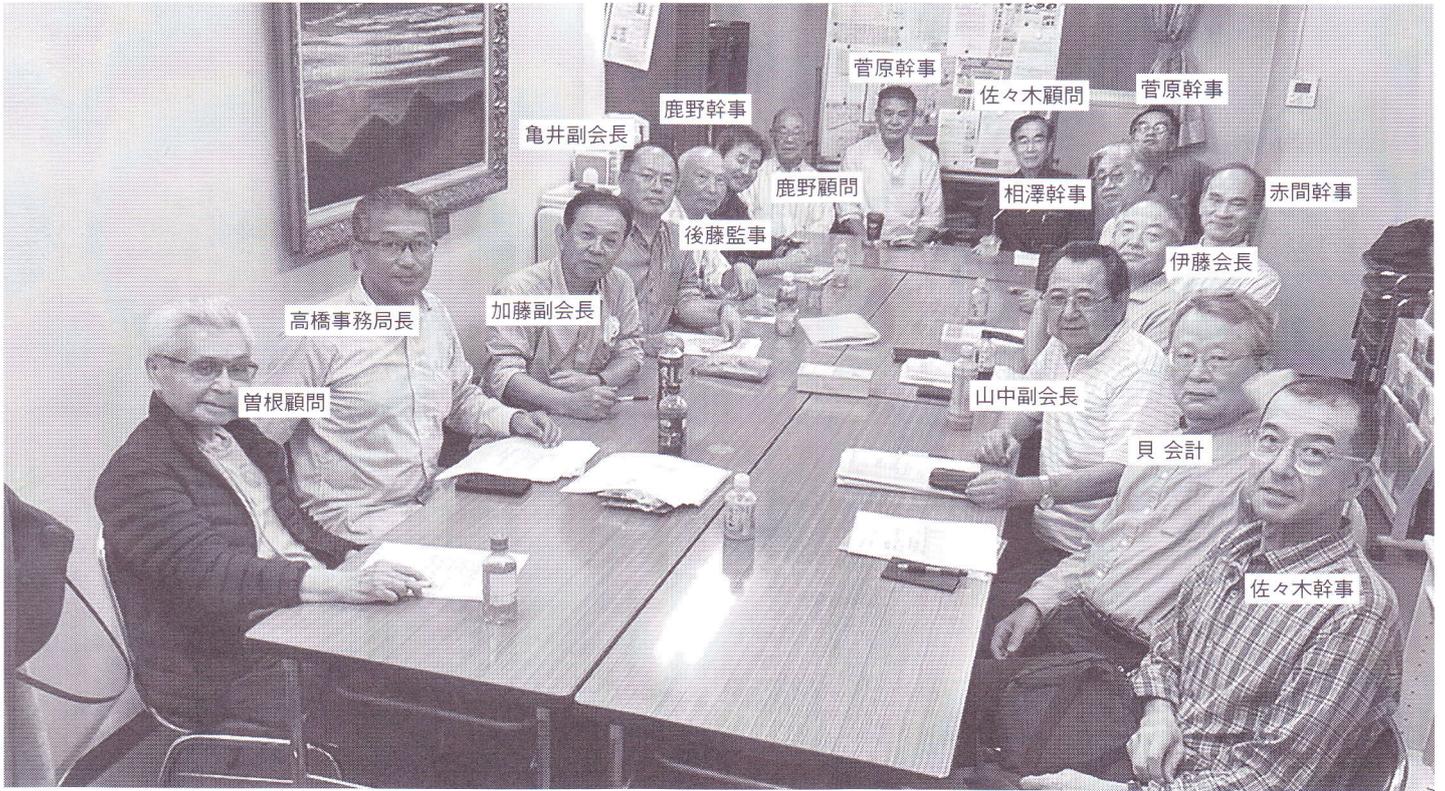
(参考)

現行の顧問は、次のとおりです。

- 三浦 澄能 S 24年卒
 - 曾根 研一 S 30年卒
 - 高橋 俊裕 S 33年卒
 - 鹿野 軍勝 S 36年卒
 - 佐々木恭次 S 38年卒
- 現行の幹事は、次のとおりです。

- 渡辺 吉郎 S 30年卒
- 大友 正行 S 33年卒
- 菊地 務 S 41年卒
- 佐々木昭美 S 42年卒
- 笠間 邦彦 S 46年卒
- 今川 和彦 S 46年卒
- 相澤 貢英 S 47年卒
- 松本 秀一 S 47年卒
- 菅原 博之 S 51年卒
- 鹿野 太一 S 53年卒
- 佐々木裕次郎 S 53年卒
- 高橋誠一郎 S 53年卒
- 菅原 祐二 S 56年卒
- 赤間 英一 S 57年卒
- 渡邊 博之 S 61年卒
- 菊地 宏幸 H 11年卒

※任期は、2年とされています(会則第7条第2項)。



在京古高同窓会の歴史

昭55卒 亀井 明

私自身、1995年の平成7年度総会から出席しておりますので、かれこれ30年ということになります。この間、時代も人も大きく変わりました。この辺で一度俯瞰して振り返ってみてはどうかということ以下にまとめた次第です。記憶違いもあるかと思いますがご容赦を。

現在の在京古高同窓会は1988年の新会則の下に運営されており、これより前とは二心区別が必要で。会報である「蜚雪」が創刊されたのも、1988年が第1号となっています。

では、それ以前はどうだったかといえますと、運動部OBや、同郷のOBの集まりが個別に活動していた時代が長く、その中でも柔道部OBの結束が強く、「関東蜚雪会」という名称で活動が行われており、これが事実上の現在の在京古高同窓会の母体となりました。

現在の形になるきっかけは、同郷の伊藤宗一郎氏が1988年に初めて大臣に就任となったのを機に、同窓会をもっと盛り上げようということ、有志による会合が何度も開かれ、会報である「蜚雪」の創刊、定期的な総会等のイベント、運営体制が決められ、同窓会は大幅にパワーアップされました。

1988年〜2000年 伊藤宗一郎会長の時代

江戸川区小岩の三峯工業(株)のオーナーであり、柔道部OBであった昭和32年片平司朗氏が事務局長に着き、昭和45年卒柔道部OBであった畠山洋氏を雇用し、実質的に事務局業務を担っていた。実質的な活動は柔道部OBが中心となっていた時代だった。

●1994年1月の古川市内4校合同の新年会の第1回目が開催され、約320名が出席 ●1996年11月に片平事務局長逝去

これに伴い三峯工業(株)に事務局を置いておくことができなくなり、まずは場所を確保する必要に迫られたが、当時、世紀東急工業の役員であった佐藤廣氏(福島大学OB)が、母校の同窓会と話しをつけ、福島大学の同窓会事務所である信陵会館を間借りすることが可能となり、同時に佐藤氏が事務局長に就任ということになった。またサポートのために、事業委員長、広報委員長、組織委員長、財務委員長を置くことになった。

●1996年12月、尾崎広報委員長(「蜚雪」編集)逝去 この事務局体制の変更直後、「蜚雪」の編集担当である、尾崎広報委員長が急逝し、広報委員長は昭和31年卒の薬剤師の萩澤氏が広報委員長に、昭和37年卒の千坂氏が編集長として携わる。

●1997年 総会にて、新体制の承認が行われ、併せて古川高校の創立100周年記念として、100万円の寄付が決まった。

●1999年 事業委員会により4校会のために「四つ葉の仲間たち」制作される

昭和30年卒の曾根氏（東京混声合唱団事務局長）が演奏企画に企画

2000年～2001年 高橋淳夫（日本興業銀行OB）会長の時代

伊藤宗一郎氏が体調もあり会長職を辞し名誉会長に。副会長であった高橋氏が会長に。

●2001年9月 伊藤宗一郎氏逝去

●2001年 体制刷新が行われ、委員会制廃止

●会員管理台帳を独自に電子化

2002年～2006年 三浦澄能会長の時代

高橋氏の後、住友電設の会長であった三浦氏が会長に。

●2002年 刷新後新体制が承認される

新たに国税OBである昭和27年卒佐藤清勝氏が事務局長に

●2003年 ホームページ暫定開設

●2005年 古高が共学化

2006年～2013年 高橋俊裕会長の時代

トヨタの重役・郵政公社副総裁であった、高橋俊裕氏が会長に。

●2008年 事務局長 昭和38年卒 佐々木恭次氏に

●2008年 門脇副会長の発案による第1回「ふるさと探訪ツアー」開催（以降、江戸・東京探訪ツアーも含めツアー例年開催に）

●「賛助金」制度スタートにより財務状況改善

2014年～2021年 鹿野軍勝会長の時代

外務省キャリアであり在外大使歴任の鹿野軍勝氏が会長に。

●2014年 江戸探訪ツアー・ふるさと探訪ツアー開催（2014～2019年）

●2020～2021年 コロナ禍により総会開催できず。紙面でも告知し書面で了解をいただくことに。

●2021年 日本政策金融公庫副総裁であった伊藤健二氏が副会長に加わる。

2022年～ 伊藤健二会長の時代

副会長の伊藤健二氏が会長に。

●「蛭雪」紙面の充実が急務と

の方向性で一致

2024年5月、大崎市の市民ギャラリー「緒絶の館」で、世界農業遺産に登録された「大崎耕土」をテーマとする写真展を開いた。7日間で約600人が来場し、「大崎平野がこんな美しいとは思わなかった」などと評価する感想が多数寄せられた。人生初の写真展を成功裏に実現できたのは、小中高の同級生たちの協力と今は亡き両親のおかげである。次は「大崎耕土の写真集を作る」という夢に向かって走り続けようと思う。

「大崎平野も果てなく美しき耕土」と題した写真展の初日5月1日朝9時、私を含む古川中学校のクラス会メンバー16人が絶の館に集まった。100平米を超える展示室の8つの壁面に、パネル写真40点、ポスターフレ

わが心の「大崎耕土写真展」
 昭52卒 荒木 健次

2024年5月、大崎市の市民ギャラリー「緒絶の館」で、世界農業遺産に登録された「大崎耕土」をテーマとする写真展を開いた。7日間で約600人が来場し、「大崎平野がこんな美しいとは思わなかった」などと評価する感想が多数寄せられた。人生初の写真展を成功裏に実現できたのは、小中高の同級生たちの協力と今は亡き両親のおかげである。次は「大崎耕土の写真集を作る」という夢に向かって走り続けようと思う。

写真集も展示した。

我ながら壮観だった。同時に、写真展を開くよう背中を押し、全面協力してくれた菅原雅美君はじめ同級生たち（ほとんどが古高の同窓生でもある）に胸が熱くなった。写真展の2週間前、ポスター印刷した40枚の写真を一枚一枚、糊付きパネルに貼っていく1日がかりの大仕事もやってくれた。彼ら彼女らの存在なくして写真展の開催はなかった。

また、古高美術部で一緒だった湯本秀昭君が現在社長を務める株式会社ナカバヤシからはポスターフレームを提供してもらった。元古高写真部で、大学、社会人になっても写真の仕事に携わり、人気作家の写真集も手がけた佐々木芳之君には、写真の選定や展示方法などを強力にアドバイスしてもらった。この

ームに入れた写真17点の計57点を展示していった。途中から別の同級生の助っ人も加わり、開場の午後1時すぎようやく作業を完了した。

写真はほとんどがB1（1030ミリ×728ミリ）とB2（728ミリ×515ミリ）の大きさ。田んぼや川、水路、溜池、沼、樹木、花、さまざまな表情を見せる空など四季折々の田園風景が画面に広がる。レイアウトも工夫し、一つの壁に縦横各3列、計9点のブロックを3つ（計27点）重ねた組写真も展示した。

写真は質的に一定以上のレベルに達しているとしたら、それは彼のおかげである。

写真展は連日盛況で、私は朝から夕方まで接客に追われ、立ちっ放しだった。観客のアンケートでは「見馴れた地域を改めて見直させてくれました。涙がにじむ思いでどれもこれも胸にしみました」「世界農業遺産の自然の素晴らしさを改めて感じました」との声が寄せられた。連日通ってくれた農家の方からは「この写真には風景だけでなく、農家の心まで写っている」という言葉までいただいた。

私が写真展を故郷で開くようになったのは、両親の介護と死が大きな契機となっている。私は時事通信社で長年経済記者をし、最後の10年は東日本大震災からの復興をテーマに選んだ。東北への取材も増え、古川の実家で両親の面倒を見ることも多

参考:総会会場

高田馬場：千代田平安閣……～1996年
 神楽坂：エミール……1997～2006年
 お茶の水：ガーデンパレス…2007年
 芝：メルパルク東京…2008～2012年
 上野：精養軒……2013～2018年
 ※2020～2021年はコロナ禍により総会中止
 御徒町：オーラム……2022年～

参考:四校新年会

高田馬場：千代田平安閣……1994～1997年
 上野：精養軒……1998～2020年
 ※コロナ禍により2021～2023年は中止
 竹橋：KKR東京……2024年～



なくなった。だが、2020年にコロナが流行する中、父は亡くなった。一人になった母を、仙台に住む兄と交代で介護する日々が始まった。

父の死後、私は会社や東京の友人などからいただいた香典などを元手にミラーレス一眼カメラを買い、母の介護の傍ら周辺の田園地帯に撮影に出かけた。何気ない日常の中に時に美しく、時に力強く現れる、自然と人間が作り上げてきた風景の力に驚いた。こんな絶景を今、自分は独り占めしている。心を震わせながら夢中でシャッターを切った。

2023年3月、朝起きると母は私が隣の部屋で寝ている間に亡くなっていった。私は5月に退社し、第二の人生を故郷の田園風景の写真を撮ること、東日本大震災からの復興をテーマにした本を書くことに決めた。とりわけ大崎耕土との出会いは両親からのギフトだと思った。

大崎耕土は、2017年に国連食糧農業機関（FAO）から幾世代も継承された、優れた文化、景観などを持つ独自で伝統的な農林水産業を営む地域として世界農業遺産に認定された。私の被写体は世界的にもその素晴らしさ、重要性を認められたものであることに気付かされた。私はこれからも写真展を重ね、大崎耕土の風景を深堀し、その劇的瞬間を一冊の写真集にまと

めることを目標にしようと思う。同時に、宮城県沿岸部を舞台とする震災復興の話も出版を目指して鋭意執筆を続けている。私は「ふるさとの力」を背に、二つの目標に向かって全力を尽くす覚悟だ。

私の履歴書ー野球編ー
古高〜東京六大学
昭48卒 佐々木治樹

古高時代は甲子園を目指し毎日野球に明け暮れていました。高校2年の夏は福島県代表の磐城高校に勝利すれば甲子園初出場。そんな経験をした我々古高野球部は後一步で甲子園行きを逃してしまいました。当時は宮城県と福島県から東北代表として1校だけが甲子園への出場権を与えられた。甲子園代表は全国で30校だけでした（現在は49校）。磐城戦までの戦績は以下の通りです。

○宮城県予選
1回戦 宮城農業 0-5 古川 ○
2回戦 祇園寺 0-5 古川 ○○
3回戦 仙台育英 2-9 古川 ○○
(7回コールド勝ち)
準決勝 仙台二 0-2 古川 ○
県代表決定戦
気仙沼 1-2 古川 ○
(延長11回サヨナラ勝ち)
※古高と東北高校が宮城県代表
○東北大会 (代表決定戦：宮城球場)
準決勝 勿来工業 7-11 古川 ○
※東北高校は準決勝で2-6で磐城高校に敗退
決勝 磐城 7-1 古川 ×
※磐城高校は全国甲子園大会決勝で桐蔭学園(神奈川県)に1-0で惜敗
○古高ナイン (対磐城戦)
① [遊] 秋保…主将
② [捕] 中鉢 (正)
③ [左] 菊池
④ [一] 金野
⑤ [投→右] 沼倉
⑥ [三] 佐々木 (治)
⑦ [二] 佐々木 (徳)
⑧ [右] 本田
投 板垣
⑨ [中] 中鉢 (豊)
代打 斎藤

佐々木治樹氏(大崎市在住)のプロフィール
古高卒業後、慶應義塾大学に進学。古高時代は三塁手、投手として活躍。大学時代は代打の切り札として活躍。江川投手からヒット、早慶戦ではホームランを打っている。現在、曾祖父、祖父が興した一般財団法人佐々木君治山報恩会の理事・事務局長、父が興した学校法人木の実学園・木の実幼稚園の理事長・園長を兼務している。

秋保主将が中心になり、投手沼倉、捕手中鉢、サード私、ライトに本田の2年生4人が先発出場していました。古高は勿来工と対戦し、勝利し、磐城との決勝に臨みました。勿来工との対戦では乱打戦になりましたが勝利しました。磐城との決勝戦では甲子園で小さな大投手と呼ばれた田村投手の投球に中々安打が出ず、7回2死までノーヒットでした。9回代打斎藤(2年)が四球で出塁、中鉢(正)の中前打でどうにか1点をもぎ取りました。田村投手は高身長で角度ある剛速球を投げるわけでもなかったですが、手首が強かったのでしょうか。ストロートは伸びてきて、得意のシユートが鋭く食い込んできました。それに加えてカーブです。結果的に敗れましたが、さすがに後に甲子園で準優勝しただけの實力を感じました。

宮城県代表になるまでを振り返ると一番の思い出は評定河原球場で行われた仙台育英との試合でした。昔から強豪校のシールド校をコールドゲームで破ったことが波に乗るきっかけだったかもしれません。投手は沼倉、板垣の2枚看板でしたが主戦沼倉の完投は初戦のみ後の試合は2人の継投でした。6・7試合目の東北大会では連戦連投での疲労が蓄積、勿来工業では打ち勝ちましたが、磐城戦では力尽きた感じでした。当時の監督は沼倉公先生で練習では投手をしてくれ、軽く投げているのですが球が伸びてきて、しかも球数も多く良い練習をさせていただきました。この日々の練習が勝ち進んだ要因とも思っています。高校を卒業してから一浪していた時、町内会から朝野球に誘われ、軟球を思いつきり投げたいたら肩を痛めてしまいました。それが大学に行くと、野球するつもりがなかったのでもいいだろうと

思っていました。大学受験は叔父のダークダックス(慶應義塾大学ワグネル・ソサイエティー男性合唱団出身の男性4名のボーカルグループ・平成5年紫綬褒章)のマンガさん(佐々木通正氏)から慶應義塾大学を受験しなさいと言われ、合格してしまいました。不合格なら家業の林業関係の大学と考えていました。その後、野球部に入れたとの命令、東京の身元引受人でしたので入部しました。
新入部員は1学年で40人位いましたが、4年まで残ったのは13人だけでした。退部理由は上級生からの厳しい指導です。現在はありませんが当時は慶應でも言葉に表せない指導がありました。私初め数人の一浪生がいたのですが、同い年で1学年上の上級生に理に合わない指導を受け、1〜2年生の時が良い気持ちでいられませんでした。それで退部した者が多くいました。現在は慶應義塾大学体育会野球部の肩書が欲しくて入部希望する学生が多くいるため、入部を制限し、選抜しているようです。
1・2年生では専ら下積み生活で3年生になってからベンチ入りしました。肩を壊し、腰は冬季の重量挙げトレーニングで痛めていたのもつばら代打要員でした。初打席は対立教戦でエースから左翼線2塁打でした。やっとなと思いきや、2塁まで行きましたが辛うじてセーフ、肝を冷

やしました。さすが六大学、アウトになったら笑いものでした。4年の春季リーグ戦では法政戦。投手は御存じ江川でした。初球インハイにストレートのボール早い、これを打つのかと思いましたが、これを打つのかと思いません。江川投手は格下の相手にはカーブは投げず、ストリートだけというのが傾向としてあることを部の学生スコアラが調べていました。2球目、インコース低めのストリートはボール2球連続インコースなので次はアウトコースストリートと読み読み通りの球がきたのでバットを出したら打球は1・2塁間を転がりライト前ヒット。1打席1打数1安打の思い出の一打でした。

早慶戦では代打で初球ホームラン。捕手は巨人で活躍した山倉でした。山倉は初動が早く、投手がモーションに入る前から移動するので、ちよつと分かれられないように後ろの気配を感じるとインコースに寄っています。狙いすまして振るとボールはレフトスタンドに吸い込まれていききました。また早稲田の投手が東北高校の出身者で私が代打で出ると古川高校佐々木君とアナウンスされましたが、マウンドでにやけていました。結局、四球。なんだこんなものかとかや拍子抜けしました。

甲子園優勝の広島商から入団拒否の金光・同じ広島商から佃投手、4番の楠木、明治には巨人入団の鹿取・中日入団の高橋両投手、慶應には後に広島、巨人入団の堀場がいました。どの試合も満員御礼。入場料収入は必要経費を差し引かれ各チームに分配されました。ですから運営費はそれなりにあつたと思います。私達がアルバイトをして部費にあてたということはありませんでした。東都六大学の方はシーズンオフに選手がアルバイトをしていたと聞いています。そのおかげでキャンプに負担はありませんでした。和歌山市の住友金属グラウンド、高知宿毛市の当時の近鉄のキャンプ地、沖縄でのキャンプがありました。沖縄キャンプは4年生時で気兼ねすることなく楽しい時間をすごしました。神宮球場での最終打席は早慶戦で、前にカーブで三振していたのでまたカーブ攻めだろうと思っていました。ベンチを出る時、カーブを打つて来ると宣言し、見事ライト前にヒットを打つことができました。最初と最後がヒットで終わり、満足行く結果でした。

夏の大大会2ヶ月前位です。それから毎日グラウンドに通い指導しました。いざ本番という時に祖父が亡くなり古川市民会館で葬儀を行うことになりました。葬儀の日は古高初戦の日です。流石に葬儀を優先させていただき、沼倉先生には体調万全でない中、部長兼監督として采配をしていただき、ご迷惑をおかけしたと今でも思っています。その時の某新聞には古高監督が通夜のため指揮を取れないと書かれました。通夜は夜なので本当に通夜なら昼に試合をして夜、通夜に出れたと思いましたが、それから某新聞の書くところが信じられなくなりました。慶應義塾大学には、ペンは剣よりも強し、という言葉がありました。私は高校卒業後、もうしないと思っていたのですが、慶應義塾大学に入学し東京六大学野球を経験することができました。これも高校時代の経験があつたからと感謝しています。当時の古高は1学年8クラスで全員男性でした。今の時代、難しいとは思いますが、後輩達には夢を諦めず頑張らせて欲しいですし、応援していきたいと思っています。

「白雪」をいつも有難うございます。昔を思い出しながら読ませていただいています。(S30年卒/瀬戸順悦)

● 今秋、オペラ「椿姫」(演奏会形式)に合唱組で参加予定です。イタリア語はチンパンカンパンですが、所々の英語に類似的の単語を頼りに特訓中です。(S30年卒/高橋 廣)

● 難聴と膝痛のため総会は欠席。賛助金提供者が激減ですね。今回は奮発して6桁を送金します。同志者増を期待しています。(S30年卒/手島篤郎)

● この年になりましたので足が攣ったり痛みがあつたりしますが、仲間達と卓球と囲碁をやつて楽しんでいきます。(S30年卒/横山 武)

● 週2回のリハビリに通つて健康に留意しております。毎朝、体操を実行しております。(S30年卒/渡辺吉郎)

● この会の運営いつも関係者の皆様ご苦労様です。感謝致しております！(S31年卒/阿部(旧姓及川)進)

● 年を取ると「田舎のこと」「古高時代のこと」等を考えてばかりの日です。(S31年卒/相澤昭男)

● 元気で。週に1〜2回のテニスをまだ続けています。(S32年卒/門間俊二)

● 障害者支援10年の活動に対し厚生労働省から感謝状を頂きました。市内医院の70%が支援メンバーに加わりました。本年度から地域に根ざしたことも・生活困窮者の支援活動に入ります。(S33年卒/早坂英郎)

● 突然ですが、父義明は6/16(日)

会員通信

に亡くなりました。生前、皆様にお声掛けいただくことを大変楽しみにしておりました。返信が遅くなつてしまい申し訳ありません。生前のご厚情、大変感謝しております。(S33年卒/三浦義明さんの長女尚子様 筆)

※同様のご連絡ほか3通(S26年卒/鈴木俊男、S35年卒/阿部信雄、S44年卒/岡村明(合掌))

● karouじて妻との二人三脚の生活を保つております。週3〜4日のスポーツセンター通いを続けています。(S35年卒/佐々木恭二)

● 82才、何とか元気に過ごしています。母校の益々の発展をお祈りしています。(S35年卒/我妻一美)

● 「白雪」73号横倉あずささんの「古高女子第一期生として」を興味深く拝読いたしました。女子I期のおときの在校生(2年生)男子の手記の寄稿記事を読んでみたいですね。(S36年卒/大益 弘)

● 活動的で活発な意見を述べる方が多くなつたようで同窓会にとっては何よりも思っています。(私は)元気でやっております。これからも宜しくお願いします。(S36年卒/鹿野軍勝)

● もう少し頑張ろうと訓練はしたものの右足半月板除去、右肩韧带断裂再発により昨年をもって野球を卒業。少々さびしき日々を送っています。(S37年卒/六戸照男)

● 菊造りで小学校のボランティア活動をしております。また、リンゴ農家への支援活動をしております。(S37年卒/澁谷 孝)

● 横浜から福島に移住して20年になろうとしており相変わらずIT農業を実践しております。近くの直売所にマイペース出荷を実践しお陰様で

充実した日々を過ごしております。(S38年卒/浅野勝吾)

●あ：あかるく、じ：じつくり、さ：さわやかに、い：いからず、の精神でのんびりと過ごしております。(S38年卒/大場和男)

●毎朝、両足首に重し(2kg)を付けて1万歩を目安にウォーキングに努め、膝関節の衰えを防いでおります。(S38年卒/佐々木恭次)

●青木麻菜美さんの参加は興味あるところですが(参加できず)残念です。私も自称「カンツォーネ歌手」なので残念です。(S39年卒/上野正司)

●今年も総会の通知があり喜んで参加させていただきます。行政区の仕事・老人会・スポーツ、と健康のために動いています。皆さんとお会いできることに感謝！(S39年卒/笹原誠一)

●社労士会でも同窓会でも気がつけばいつの間にか長老の部類に。でも、若い方々といると自分も若返ります。(S39年卒/後藤雅正)

●喜寿を迎えています。古高時代の元気を維持すべく、学童の通学路見守り、フリマ出店、シニアクラブのカラオケサークル、ベリッシマでの船旅、そして料理教室にと日々汗を流しています。(S39年卒/高橋博)

●週2回のバドミントンと湯船に浸かりながらの唄(民謡)と晩酌を毎日楽しんでます。(S41年卒/高橋秀之)

●宮城県の方に住所を移しておりますので(本部総会は)欠席致します。(S42年卒/大友文博)

●今回は用事があって出席が叶いません。現在地元で49自治会を束ねる

連合自治会の会計を努めており地域活動に精を出しております。(S42年卒/門田芳司)

●当日は予定があり(総会は)欠席とさせていただきます。国内外色々の変化の激しい状況であります。しっかりと目を開いて平穩に過ごせればと思うこのごろです。(S44年卒/相澤次男)

●71才の時バイクで転倒し骨折、退職しました。6年前から透析中。(S45年卒/飯田 功)

●73号は恩師3人が寄稿され、懐かしい思いで読みました。友川先生、二宮先生、横山先生、お元気でなによりです。今年は、在仙会、来年は在京会と1年置きで出席に努めますので宜しくお願い致します。(S45年卒/岩瀬昭典)

●いつも有難うございます。日頃の励みにしています。あの健ちゃんが会長になったあ：おめでとう！(S48年卒/石川克雄)

●青木麻菜美さんの後援会が発足とのこと。総会を含めて応援していきますよ。(S48年卒/伊藤健二)

●同級生との再会は総会ならではの楽しみ。8月には6年ぶりに中学の同窓会が開催されるらしい。懐かしい友との再会がこれまた、楽しみです。(S48年卒/貝 修二)

●今年8月の全日本ハンドボールスターズ大会は盛岡です。走るのがやつとですが参加します。シュートを決める。(S48年卒/加藤敏朗)

●昨年7月に12年間単身赴任した東京から自宅のある宝塚に戻りました。個人事業主として、お世話になった中小企業を含む団体や学校等に恩返しを行っています。(S48年卒/三神泉)

●在京二八会、そろそろまた集まり

ますか。とりあえず、みんな現在何をしていますか？元気でいますか？(S51年卒/菅原博之)

●何かの折に連絡を。連絡先、携帯0901364910236 伊藤会長と同郷です。(S52年卒/佐藤清陽(旧姓 佐澤裕))

●今回が初参加です。亡くなられた阿部眞君は応援団長でした。52年卒の在京組懇親会は12年前にスタートし、昨年6月には阿部君も参加してくれました。役員の皆様お世話になります。(S52年卒/竹中徹)

●再雇用最終年になりました。まだ、サッカー部顧問をしております。(S53年卒/遠藤 淳)

●当会の活動に加わって以降、同期との再会・連絡の機会が増えました。輪を広げていきたいと思えます。(S53年卒/鹿野太一)

●3月にハンドボール部3期合同同窓会を仙台秋保で開催しました。12年ぶりで楽しい時間でした。話題はやはり健康ネタでした。(S53年卒/佐々木裕次郎)

●まだ、現役で会社勤務しております。(S53年卒/細谷浩司)

●65歳が近づき始めて年金事務所に行つて自分が受け取れる年金額をシミュレーションしてきました。働けるだけ働かないとダメかも。(S55年卒/亀井明)

●還暦を過ぎて東京都立産業技術大学院大学の修士課程を修了し、現在は核融合炉開発スタートアップを支援しております。「地上の太陽」を実現するため、もう少し頑張ります！(S55年卒/佐々木洋朗)

●5/16より転職致しました。その為、同時に引越しました。以前と全く違う仕事です。ゴスペルも継続。バルブメーカーから液体ガラスメーカーへ転身！(S56年卒/菅原祐二)

●仕事のペースを落としてゆっくり過ごす計画でしたが、相変わらず忙しくしています。ただ免疫力の低下を日々感じるこの頃です。(S57年卒/赤間英一)

●令和7年1月の四校合同関東同窓会には初参加させて頂きたいと思っております。(S58年卒/堀越孝行)

●5月に在京古高同窓会に出席させて頂いたとき、同期2名と41年ぶりに再会。古高の「昭和40年会」に入ってもらいました。(S59年卒/高橋克嘉)

●今年より大阪支社長として関西に来ております。(S62年卒/渡辺能央)

編集後記

●今回は、古高の歴史的な1ページである最も甲子園に近づいた瞬間の当事者である佐々木さんの野球人生について原稿をお願いしました。その瞬間に立ち会われた方で、記憶を新たにされた会員諸氏も多いかと思えます。

●また、時事通信社勤務ののち、ご両親の介護をきっかけに故郷大崎の美しい姿に気づき、それを写真で後世に残そうと奮闘する荒木さんに原稿をお願いしました。思わぬ展開に人生の妙を感じました。

●ここ数年で役員・事務局体制の世代交代もありましたので、在京古高同窓会の流れを私が辿れる範囲でいったんまとめました。思わぬ気づきもありました。みなさま、新年会でお会いしましょう！(亀井)

BIPは、企業様と共に事業開発・経営改善に取り組み、第2・第3の成長を創るパートナー

BIP株式会社 Business Integration Partners
 取締役会長 佐々木 昭美 昭和42年卒

東京本社 東京都中央区日本橋1丁目2-10 東洋ビル6F
 TEL: 03-5542-1417 FAX: 03-5542-1418
 東北事業所 宮城県仙台市青葉区中央1-2-3 仙台マークワン19F
 TEL: 022-208-9322

E-mail: info@bi-p.co.jp URL: http://www.bi-p.co.jp

FORTEC MOTOR SPORTS OIL

エコオイルからレーシングオイル開発に変わり、国内、海外展開をしている。

FORTEC モータースポーツオイル発売元

耐久レース、ラリー、ダートトライアル、ジムカーナ等のサポートドライバーが大活躍しております。

代表取締役 渋谷 誠一 (昭和42年卒)

フォルテック株式会社

〒270-1108 千葉県我孫子市布佐平和台 4-5-23
 TEL 04-7189-4117 FAX 04-7189-2687

<http://www.fortec-oil.com/>

